

# 事業概要

平成 27 年度



福岡県食肉衛生検査所

〒818-0072

福岡県筑紫野市二日市中央4丁目5番34号

e-mail [shokunikukensa@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:shokunikukensa@pref.fukuoka.lg.jp)

TEL 092(923)6621

FAX 092(923)6648

各

各

4

HACCP

HACCP

FAO/WHO

27

28 8

# 目次

1		.....	1
2	收	.....	2
3	收	.....	4
4	收	.....	5
5		.....	6
6		.....	7
7		.....	8
8	收	.....	9
9	收	.....	9
1		.....	10
1		.....	11
2		.....	11
3	收	.....	12
4		.....	13
5		.....	14
6		.....	16
7		.....	17
8		.....	19
9		.....	19
10		.....	20
11		.....	21
12		.....	22
2			
1		收	..... 23
2		收	..... 26
3			
1		.....	27
2		.....	28
3		.....	30
4		.....	32
4			
1		.....	34
2		.....	37
3		.....	37
1		.....	38
2	收	.....	41

# 第 1 章 総 説

# 1 福岡県のと畜、食鳥検査の概要

## (1) と畜検査の概要

福岡県が管轄する地域（福岡市、北九州市、大牟田市、久留米市を除く。）にはと畜場が 4 施設あったが、直方ミートセンターは現在も休業中であり、また平成 27 年 12 月にうきは市と畜場が廃止となった。専任のと畜検査員 18 名でと畜検査を行っている。

平成 27 年度の検査頭数は牛 16,739 頭、とく 159 頭、馬 1,230 頭、豚 66,251 頭、めん羊 9 頭で、前年度比は牛では 1,670 頭減少、とくでは 11 頭減少、馬では 115 頭増加、豚では 740 頭減少、めん羊では 13 頭減少した。なお、平成 27 年度の山羊のと畜はなかった。各と畜場の検査頭数は第 2 章に示しているとおりでである。

本県管轄内で最も大きなと畜場である九州協同食肉株式会社は全農の関連会社で、牛豚ともに県内をはじめ九州各県及び山口県等広い範囲から搬入され、牛においては肉用種の比率が高い。

一方、県南部のと畜場（県南食肉センター、うきは市と畜場）は、二つのと畜場を合わせた年間のと畜頭数の 5 割以上が馬で占められている。また、県南食肉センターの牛においては、乳用種の比率が高い。

BSE スクリーニング検査は、平成 25 年 7 月 1 日より BSE 検査の対象となる牛の月齢が 48 ヶ月齢超となったことを受け、2 名体制から 1 名体制で実施している。

食肉に対する消費者の不安・不信を払拭するため、より信頼されると畜検査や精密検査体制の充実に努めている。

## (2) 食鳥検査の概要

本県が管轄する地域には、大規模食鳥処理場が 2 施設、認定小規模食鳥処理場が 17 施設あり、専任の食鳥検査員 6 名で食鳥検査を行っている。

平成 27 年度の検査羽数は、ブロイラー 594,318 羽、成鶏 2,209,333 羽、合計 2,803,651 羽であった。

認定小規模食鳥処理場については、各施設について、定期的に巡回し、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律の確認規程に基づく基準適合の確認及び施設の維持管理等について指導・相談対応を行っているが、早朝から処理する施設もあるため、早朝 4 時あるいは 6 時出勤の変則勤務で対応している。

また、大規模食鳥処理場においては鳥インフルエンザを発見した場合の対応なども整備し、消費者へ安全な食肉を届けるための検査体制の充実に努めている。

これからの課題として、と畜検査、食鳥検査の意義と重要性を認識し、検査の目的を達成するため、有用な検査データを積極的にフィードバックし、行政機関、生産者及び関係業界との連携協力ができる体制作りが必要である。

## 2 施設概要及び位置案内図

敷地面積 1,290.11 m<sup>2</sup>

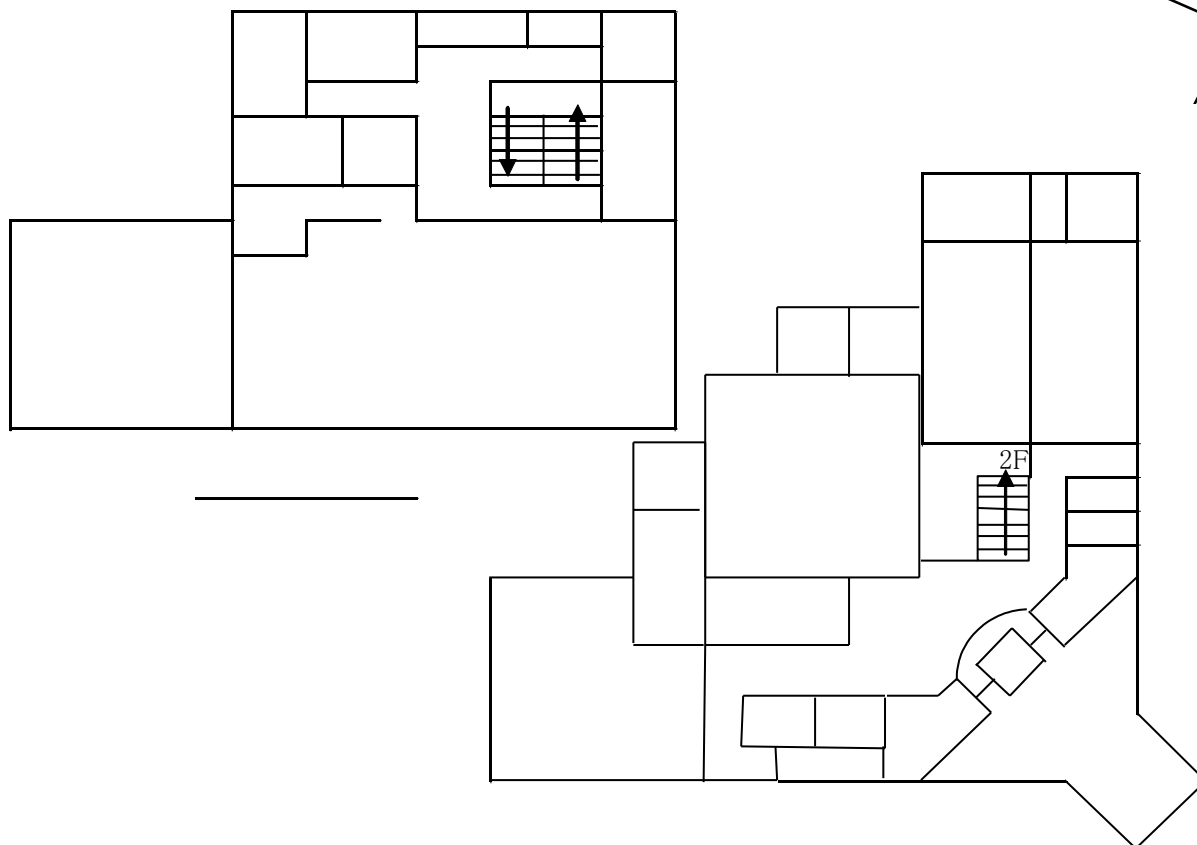
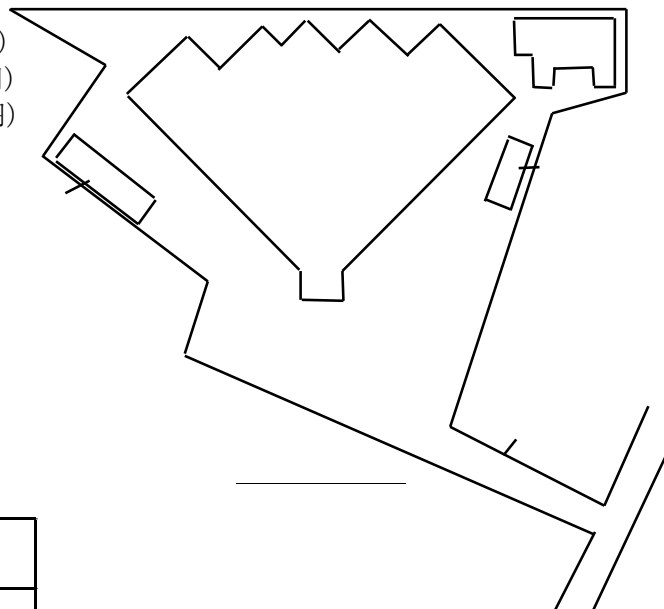
建 物	(建坪総面積合計 744,338 m <sup>2</sup> )		
①本館棟	鉄筋コンクリート	2階建	648,588 m <sup>2</sup>
②付属舎棟	鉄筋コンクリート	平屋造	54,000 m <sup>2</sup>
③車庫棟	鉄筋コンクリート	平屋造	26,560 m <sup>2</sup>
④倉庫棟	木造プレハブ	平屋造	15,190 m <sup>2</sup>

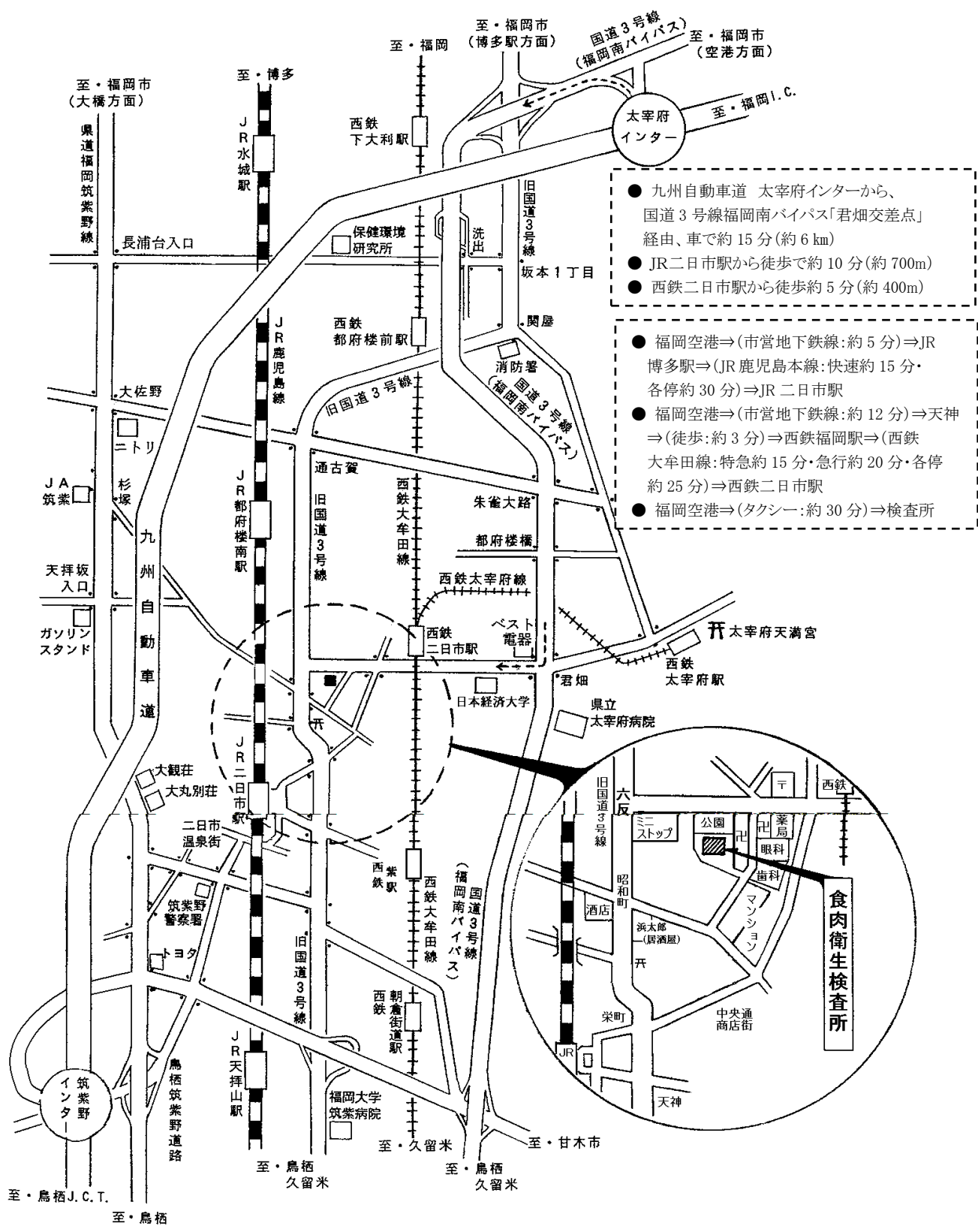
建設費総額 213,639 千円 (国庫補助 17,065 千円)  
(起 債 92,000 千円)  
(一般県費 104,574 千円)

建設費内訳 設計委託費 9,770 千円  
工事費 169,079 千円  
備品費 30,834 千円  
その他諸経費 3,956 千円

竣 工 昭和60年3月30日

増 築 平成4年3月31日

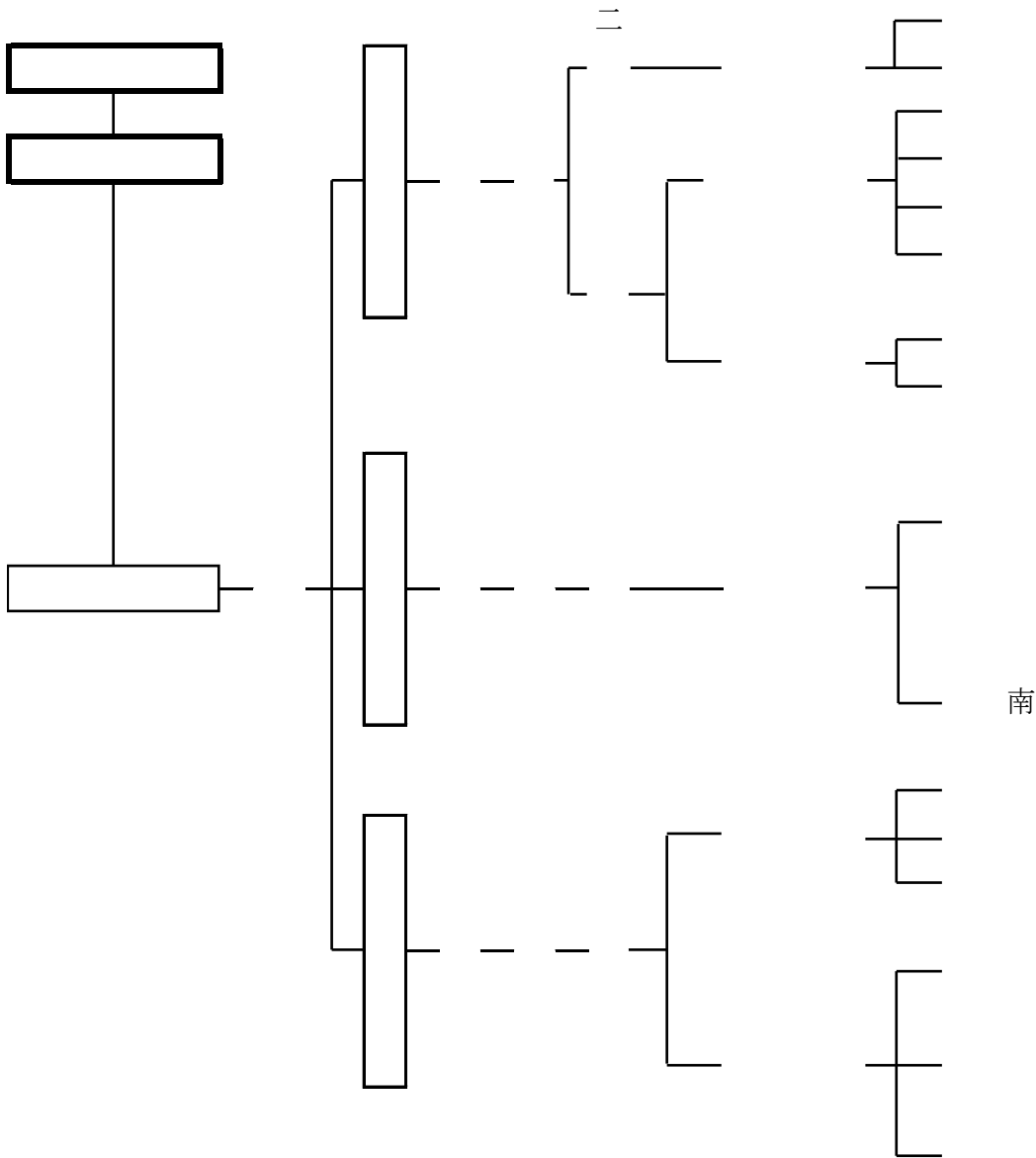




- 九州自動車道 太宰府インターから、国道3号線福岡南バイパス「君畑交差点」経由、車で約15分(約6km)
  - JR二日市駅から徒歩で約10分(約700m)
  - 西鉄二日市駅から徒歩約5分(約400m)
- 
- 福岡空港⇒(市営地下鉄線:約5分)⇒JR博多駅⇒(JR鹿兒島本線:快速約15分・各停約30分)⇒JR二日市駅
  - 福岡空港⇒(市営地下鉄線:約12分)⇒天神⇒(徒歩:約3分)⇒西鉄福岡駅⇒(西鉄大牟田線:特急約15分・急行約20分・各停約25分)⇒西鉄二日市駅
  - 福岡空港⇒(タクシー:約30分)⇒検査所

### 3 組織・機構および職員構成

(1) 検査所の組織及び機構 (平成28年3月31日現在)



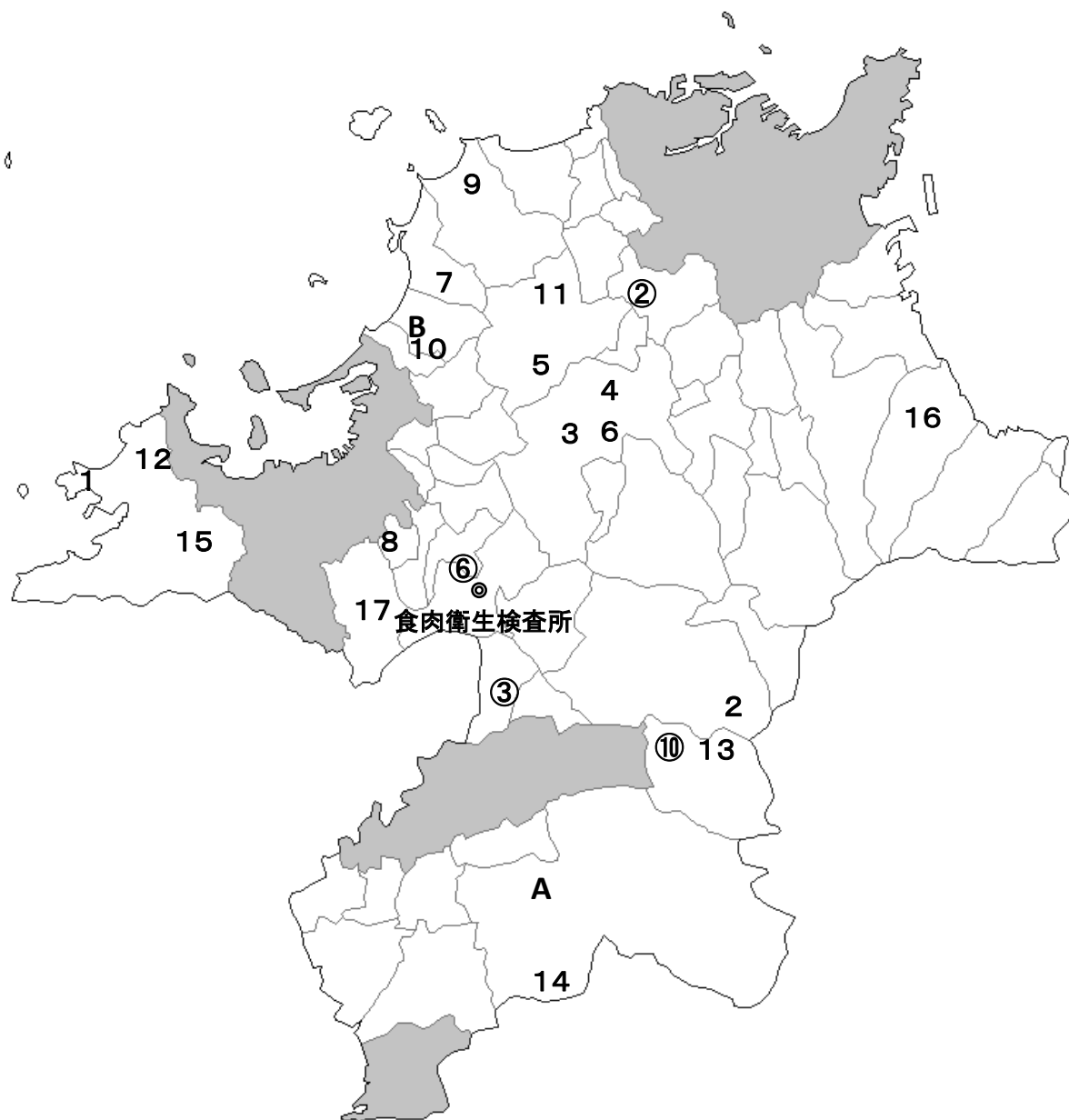
(2) 職員構成 (平成28年3月31日現在)

		二		二		二				
		二	二	二	二					
	1		1							
	13	2		1	1	*1		2	6	1
	7			1		1		2	2	1
	6			1		1	1	2	1	
	27	2	1	3	1	2	1	6	9	2

二



#### 4 所管すると畜場及び食鳥処理場の位置図



②、③、⑥、⑩：と畜場

A、B：大規模食鳥処理場（年間処理羽数が30万羽を超える施設）

1～17：認定小規模食鳥処理場（年間処理羽数が30万羽以下の施設）

\* 福岡市、北九州市、大牟田市及び久留米市を除く。

## 5 所管と畜場の概要 (平成28年3月31日現在)

と畜場 番号	と畜場名	設置者	所在地	許可年月日	面積(m <sup>2</sup> )		処理能力(頭/1日)		
					敷地	建物(延)	大動物	小動物	小動物換算
2	筑豊畜産株式会社 直方ミートセンター	筑豊畜産 株式会社	〒822-0034 直方市山部922-5	S45.10.14 (H9.9.1 から休業)	9,370	1,212	55	-	220
3	県南食肉センター	県南食肉セン ター協同組合	〒838-0132 小郡市光行1152	H4.10.16	4,975	1,537	40	50	210
6	九州協同食肉株式会社	九州協同食肉 株式会社	〒818-0105 太宰府市都府楼南5-15-1	S58.9.24	21,976	4,079	100	300	700
10	うきは市と畜場	うきは市	〒839-1305 うきは市吉井町福永72番地1	S35.5.9 (廃止届 H27.12.28)	1,934	581	5	-	20

## 6 所管大規模食鳥処理場の概要 (平成28年3月31日現在)

					年		
A			H6.9.26		8,243		
B			H6.11.10		2,377		

7 所管認定小規模食鳥処理場の概要 (平成28年4月1日現在)

1						H4.3.30	
2						H4.3.30	
3						H4.3.30	
4						H4.3.30	
5						H4.3.30	
6						H4.3.30	
7						H4.3.30	
8						H6.7.1	
9						H10.5.27	
10						H13.9.20	
11						H14.10.11	
12						H14.11.12	
13						H15.8.6	
14						H23.6.1	
15						H25.2.7	
16						H25.8.7	
17						H27.3.16	

区分	科目	平成27年度決算額
収入	と畜検査手数料	30,707,100
	食鳥検査手数料	11,214,604
	証明手数料	100,000
	食鳥処理事業許可手数料	0
	計	42,021,704
支出	普通旅費	2,194,682
	光熱水費	2,254,400
	その他需用費	6,800,985
	通信運搬費	220,734
	その他役務費	401,783
	委託費	1,304,748
	使用料及び賃借料	233,630
	備品購入費	4,999,968
	計	18,410,930

(単位:円)

区分	手数料	
検査手数料	牛・馬	1頭につき600円
	とく・こま・豚・めん羊・山羊	1頭につき300円
	食鳥	1羽につき4円
諸証明手数料	1件につき400円	

## 第 2 章 事業概要

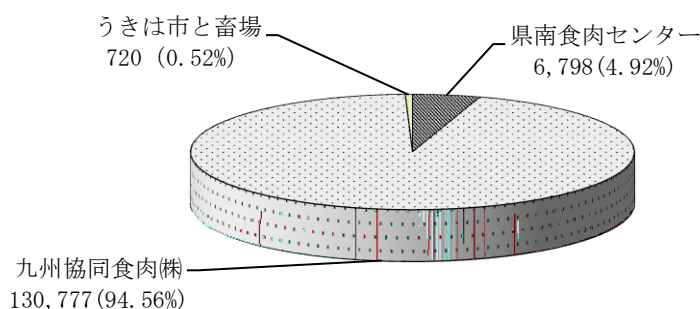
# 1 と畜検査

## (1) と畜場別・畜種別と畜検査頭数

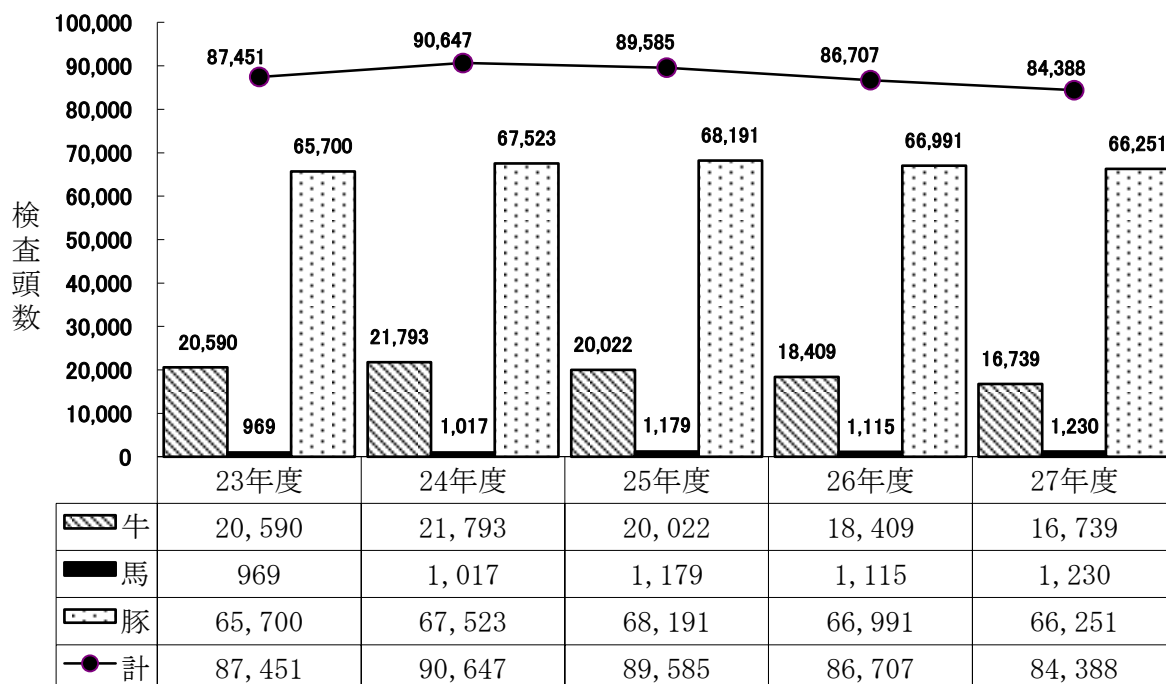
	牛	とく	馬	豚	めん羊・山羊	小動物換算合計 (うち病畜数)
県南食肉センター	561 (175)	159	1,053 (10)	174	9	6,798 (740)
九州協同食肉㈱	16,175 (41)	0	0	66,077	0	130,777 (164)
うきは市と畜場	3	0	177	0	0	720
合計実頭数 (うち病畜数)	16,739 (216)	159	1,230 (10)	66,251	9	138,295 (904) 84,388 (226)

※小動物換算：大動物＝小動物×4

### と畜場別と畜検査頭数（小動物換算）



### 過去5年間のと畜検査頭数の推移



(2) と畜場別・畜種別月間検査頭数

【県南食肉センター】

畜種	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
牛	561	52	49	54	64	43	37	42	43	61	43	39	34
とく	159	11	14	7	17	24	8	19	11	20	9	6	13
馬	1,053	51	39	40	40	80	65	63	57	137	49	173	259
豚	174	15	11	17	14	18	14	13	20	12	12	15	13
めん羊	9	2	0	0	0	0	0	3	0	2	0	2	0

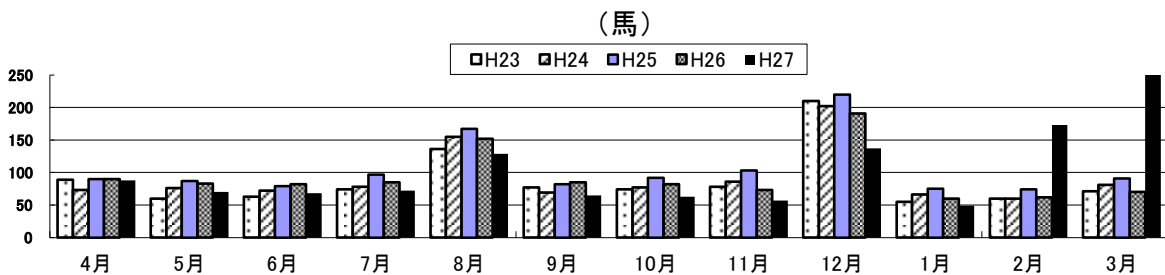
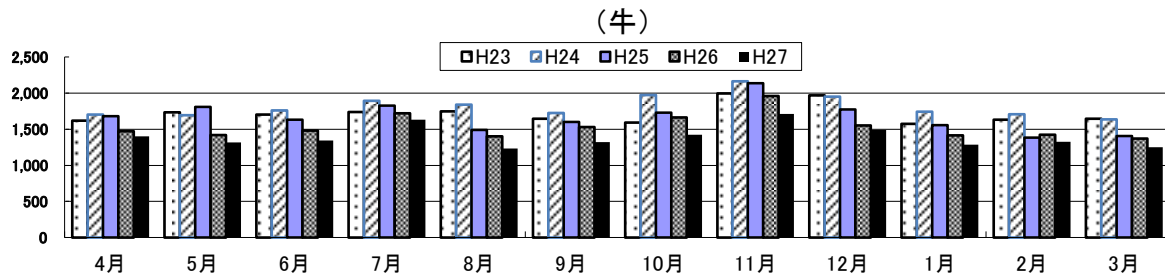
【九州協同食肉(株)】

畜種	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
牛	16,175	1,347	1,268	1,291	1,567	1,190	1,284	1,381	1,669	1,428	1,243	1,289	1,218
とく	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豚	66,077	5,878	5,434	5,397	5,286	4,682	5,355	6,220	5,929	6,019	5,253	5,266	5,358

【うきは市と畜場】

畜種	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
牛	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
馬	177	37	31	28	32	49	0	0	0	0	0	0	0

過去5年間の月別とちく検査頭数の推移

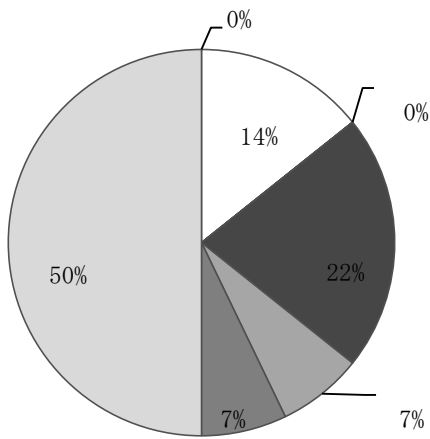




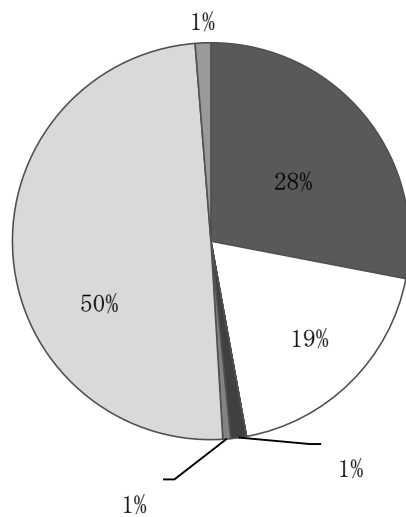


		0	0		0	0	0	0	1	1	0	2			4
		0	0		0	0	0	0	0	0	0	0			0
		0	0		0	0	0	0	2	0	1	0			3
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0		0	0	2	0	2	0	1	5			10
		20	2	0	22	44	30	0	2	0	1	0	78	2	157
		0	0		0	0	0	0	0	0	0	0			0
		0	0		0	0	0	0	0	0	1	0			1
		0	0		0	0	2	0	3	1	1	7	0	0	14
		0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0		0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	4
		20	2	0	22	44	30	0	2	0	1	0	78	2	157

14



157



(5) 牛のと畜場別・器官別疾病数 【図1】

と畜場名	県南	九食	うきは	合計
と畜検査頭数	561	16,175	3	16,739
処分実頭数	422	13,722	0	14,144

疾病名	県南	九食	うきは	合計
心筋炎	3	14		17
心外膜炎	49	473		522
心内膜炎	1	1		2
心臓リポフスチン沈着	2	1		3
心内膜石灰沈着症				0
心筋出血		24		24
大動脈炎				0
小計	55	513	0	568
脾膿瘍		3		3
脾包膜炎		1		1
脾炎				0
脾腫				0
リンパ節膿瘍	1	56		57
リンパ節結節		10		10
リンパ節血腫				0
小計	1	70	0	71
肺炎(その他)	22	999		1,021
肺膿瘍	7	242		249
胸膜炎	38	4,441		4,479
横隔膜膿瘍	2	260		262
横隔膜水腫				0
縦隔膜膿瘍		4		4
縦隔膜水腫				0
小計	69	5,946	0	6,015
腎炎(その他)	23	68		91
腎膿瘍	1	16		17
腎出血				0
腎結石		67		67
腎臓リポフスチン沈着	2	3		5
腎腫瘍				0
腎周囲脂肪壊死	2	742		744
のう胞腎		37		37
膀胱炎	1	15		16
膀胱膿瘍				0
膀胱結石		13		13
尿道炎				0
尿道結石	1	3		4
乳房炎	28	3		31
子宮蓄膿症				0
子宮脱・膣脱				0
卵巣嚢腫				0
小計	58	967	0	1,025

疾病名		と畜場名	県南	九食	うきは	合計
消化器系	舌膿瘍			3		3
	舌潰瘍			2		2
	舌炎		1	4		5
	胃炎(その他)		102	1,153		1,255
	胃潰瘍			2		2
	胃膿瘍		5	47		52
	第3胃色の異常			272		272
	第3胃形の異常			20		20
	小腸炎		59	1,427		1,486
	大腸炎		101	3,546		3,647
	腸膿瘍			3		3
	腸結節虫症			17		17
	腸間膜膿瘍			26		26
	腸間膜脂肪壊死		7	1,322		1,329
	腹膜炎		7	20		27
	肝蛭症		3	38		41
	肝炎(その他)		130	2,407		2,537
	胆管炎		11	234		245
	肝膿瘍		19	554		573
	肝硬変			2		2
	肝包膜炎		32	763		795
	肝出血		63	4,328		4,391
	肝静脈炎		6	116		122
	肝富脈斑		41	11		52
	肝うっ血		3	223		226
	肝臓リポフスチン沈着		5			5
	鋸屑肝		8	1,080		1,088
	脾蛭症			1		1
脾炎			1		1	
ヘルニア			1		1	
小計		603	17,623	0	18,226	
運動器系	筋(筋間)水腫		12	159		171
	筋炎(その他)		94	647		741
	筋膿瘍		14	36		50
	筋出血			4		4
	筋脂肪症					0
	筋リポフスチン沈着		1			1
	関節炎		49	6		55
	脱臼					0
	骨折		2	3		5
	小計		172	855	0	1,027
その他	皮膚炎			1		1
	パピローマ		1	1		2
	皮下水腫					0
	皮下膿瘍					0
	放線菌病			4		4
	メラノーシス			1		1
	腫瘍					0
小計		1	7	0	8	
合計		959	25,981	0	26,940	

(6) 馬のと畜場別・器官別疾病数 【図2】

と畜場名	県南	九食	うきは	合計
と畜検査頭数	1,053	0	177	1,230
処分実頭数	392	0	78	470
疾病名				
循環器系	心筋出血	2		2
	心外膜炎	5	1	6
	心内膜炎	1		1
	心筋炎	1		1
	心臓リポフスチン沈着			0
	動脈炎	1	1	2
	小計	10	0	2
造血液・ 血管系	脾膿瘍			0
	脾腫			0
	リンパ節膿瘍			0
小計	0	0	0	0
呼吸器系	肺炎(その他)	43	2	45
	肺腫瘍			0
	肺砂粒症			0
	肺膿瘍	1	1	2
	胸膜炎	6	1	7
	小計	50	0	4
消化器系	胃炎(その他)	1		1
	小腸炎	15	1	16
	大腸炎	6	14	20
	円虫症	1	4	5
	腸結節虫症			0
	腸うっ血			0
	腹膜炎	4	2	6
	肝炎(その他)	25	5	30
	肝硬変	1		1
	肝包膜炎	3	1	4
	肝出血	2		2
	肝線維症	15		15
	肝砂粒症	293	68	361
	肝リポフスチン沈着			0
	鋸屑肝			0
肝蛭症			0	
脂肪肝			0	
小計	366	0	95	461
泌尿・生殖 器系	腎炎(その他)	2		2
	腎膿瘍			0
	腎結石			0
	嚢胞腎			0
	腎臓の腫瘍			0
	リポフスチン沈着腎			0
	膀胱炎			0
小計	2	0	0	2
運動器系	筋炎(その他)	9	5	14
	筋出血	6		6
	筋(筋間)水腫	1		1
	筋膿瘍			0
	腱炎			0
	腱断裂			0
	関節炎	2		2
	骨折	4		4
小計	22	0	5	27
その他	メラノーマ			0
	メラノージス			0
	小計	0	0	0
合計	450	0	106	556

(7) 豚のと畜場別・器官別疾病数 【図3】

と畜場名	県南	九食	合計
と畜検査頭数	174	66,077	66,251
処分実頭数	142	38,628	38,770

疾病名				
循環器系	心筋炎		54	54
	心筋膿瘍		5	5
	心筋出血		3	3
	心外膜炎	10	4,280	4,290
	小計	10	4,342	4,352
造血液・ 血管系	脾膿瘍		67	67
	脾腫		6	6
	脾包膜炎	1	640	641
	リンパ節膿瘍		87	87
	リンパ節結節		357	357
小計	1	1,157	1,158	
呼吸器系	肺炎(その他)	28	9,013	9,041
	S E P		1,162	1,162
	肺膿瘍	7	2,920	2,927
	肺虫症			0
	胸膜肺炎	1	587	588
	胸膜炎	14	6,371	6,385
	横隔膜膿瘍		2	2
小計	50	20,055	20,105	
消化器系	胃炎	1	1,434	1,435
	胃膿瘍		9	9
	胃潰瘍			0
	小腸炎	5	3,986	3,991
	大腸炎	16	2,133	2,149
	腸膿瘍			0
	腹膜炎	8	5,729	5,737
	腹腔内膿瘍			0
	腸気泡症	1	13	14
	直腸脱・脱肛		7	7
	ヘルニア	1	228	229
	肝炎(その他)		5,389	5,389
	肝膿瘍		12	12
	間質性肝炎	122	7,683	7,805
	肝硬変		8	8
	肝包膜炎	5	4,258	4,263
	肝出血		6	6
肝腫瘍	1		1	
小計	160	30,895	31,055	

疾病名		と畜場名	県南	九食	合計
泌尿・生殖器系	腎炎(その他)			554	554
	腎膿瘍			5	5
	のう胞腎		1	716	717
	腎出血			1	1
	膀胱炎			1	1
	小計		1	1,277	1,278
運動器系	筋炎(その他)		3	308	311
	筋膿瘍		1	417	418
	筋水腫			3	3
	骨折			5	5
	関節炎			6	6
	小計		4	739	743
その他	皮膚炎			2	2
	皮下膿瘍			24	24
	耳介炎				0
	耳介変形				0
	小計		0	26	26
合計			226	58,491	58,717

### 器官別疾病数割合

図1 牛 (26,940件)

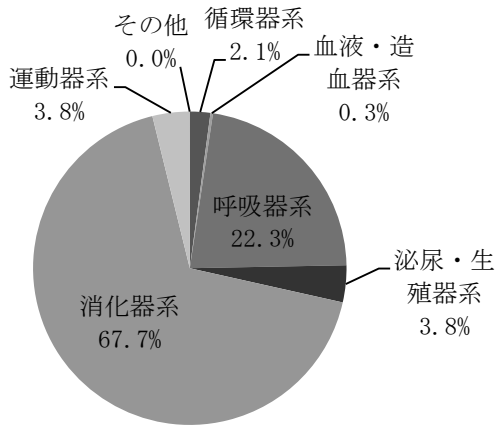


図2 馬 (556件)

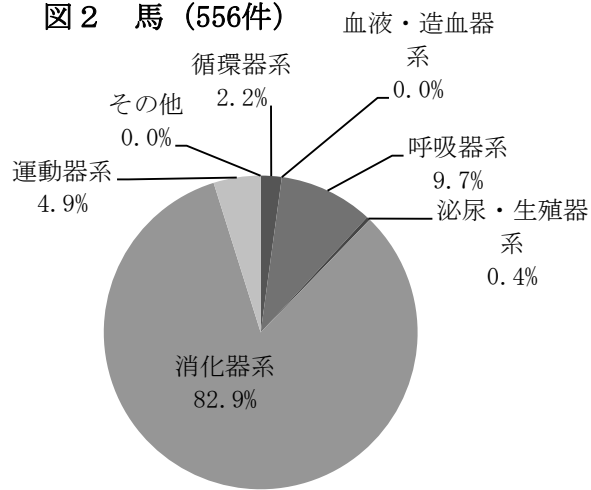
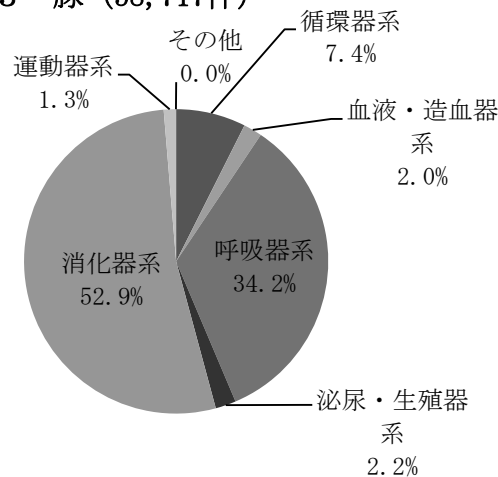


図3 豚 (58,717件)



(8) とくのと畜場別・器官別疾病数

と畜場名	県南	九食	うきは	合計
と畜検査頭数	159	0	0	159
処分実頭数	9	0	0	9

疾病名					
循環器系	心外膜炎				0
	心内膜炎				0
	心筋炎				0
	小計	0	0	0	0
泌尿器系	腎炎				0
	膀胱炎				0
	小計	0	0	0	0
呼吸器系	肺炎	1			1
	肺膿瘍				0
	胸膜炎				0
	小計	1	0	0	1
消化器系	胃炎				0
	小腸炎	5			5
	大腸炎				0
	肝炎(その他)	2			2
	肝出血				0
	鋸屑肝				0
	肝膿瘍				0
	腹膜炎				0
	腸間膜脂肪壊死				0
	ヘルニア				0
	小計	7	0	0	7
運動器系	筋膿瘍				0
	筋炎	1			1
	骨折				0
	関節炎	2			2
	小計	3	0	0	3
合計		11	0	0	11

(9) めん羊のと畜場別・器官別疾病数

と畜場名	県南	九食	うきは	合計
と畜検査頭数	9	0	0	9
処分実頭数	2	0	0	2

疾病名					
	心外膜炎				0
	肺炎				0
	肝炎	2			2
	肝砂粒症				0
合計		2	0	0	2

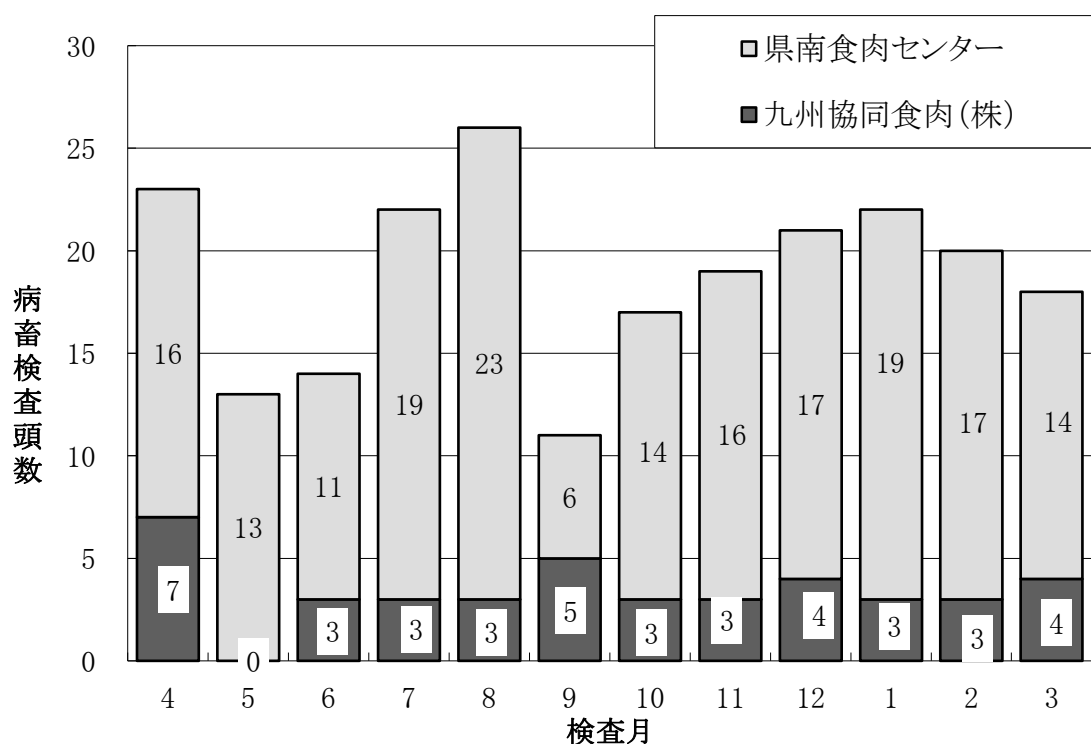


(10) 病畜検査状況

ア と畜場別・畜種別・月別病畜検査頭数

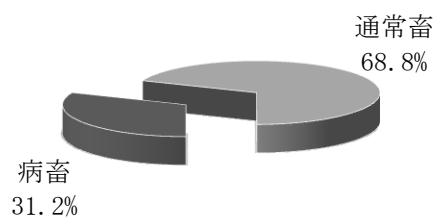
と畜場名	畜種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
県南食肉センター	牛	16	13	11	19	23	6	14	16	17	19	13	8	175
	とく													0
	馬											4	6	10
九州協同食肉(株)	牛	7	0	3	3	3	5	3	3	4	3	3	4	41
	とく													0
月計	牛	23	13	14	22	26	11	17	19	21	22	16	12	216
	とく													
	馬											4	6	

イ と畜場別病畜検査頭数

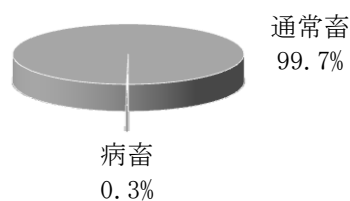


ウ 各と畜場における検査総数に占める病畜検査頭数割合

県南食肉センター (牛)



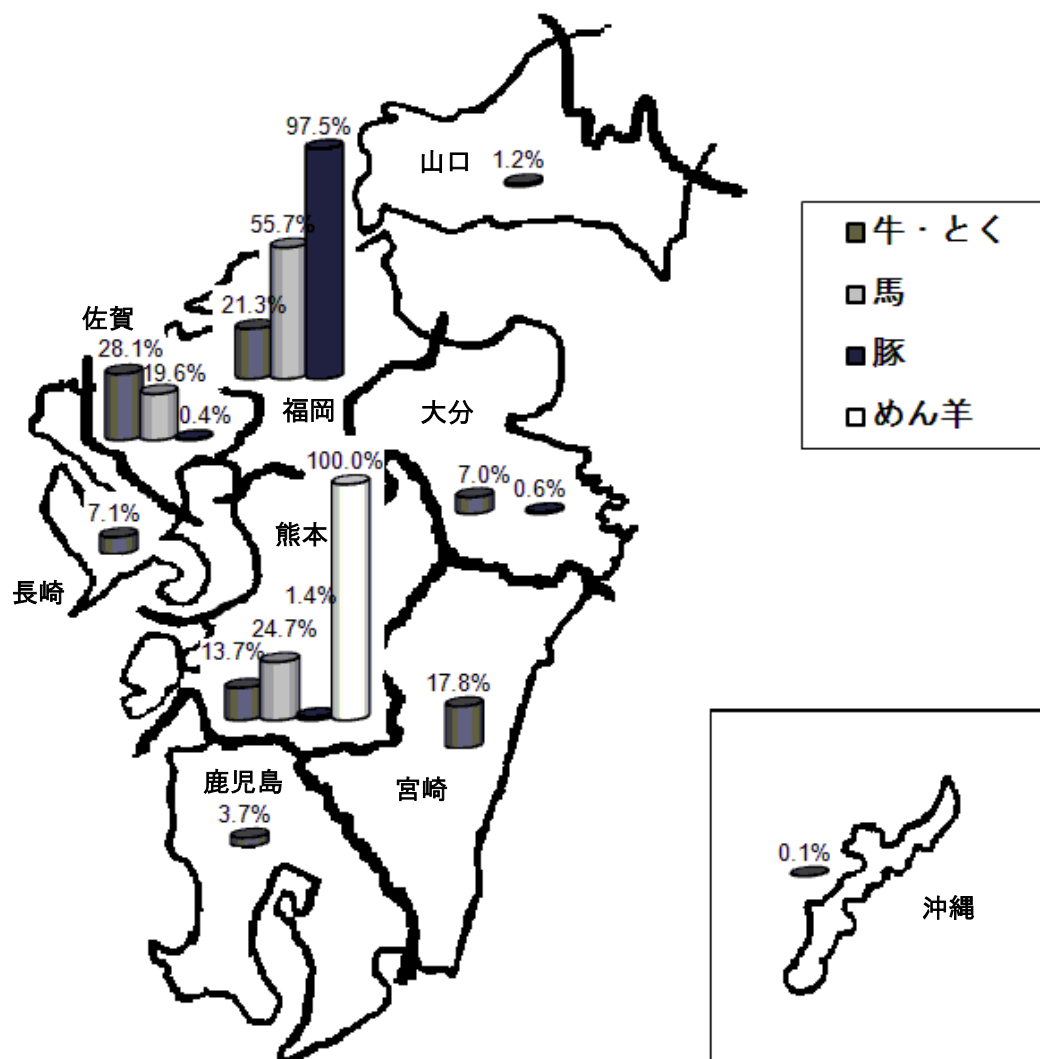
九州協同食肉(株) (牛)



(11) と畜種別・出荷地別搬入状況

	牛	とく	馬	豚	めん羊・山羊
福岡	3,591	3	685	64,627	0
佐賀	4,750	0	241	292	0
長崎	1,208	0	0	0	0
熊本	2,162	156	304	917	9
大分	1,178	0	0	415	0
宮崎	3,009	0	0	0	0
鹿児島	618	0	0	0	0
沖縄	17	0	0	0	0
岐阜	2	0	0	0	0
山口	204	0	0	0	0
北海道	0	0	0	0	0
合計	16,739	159	1,230	66,251	9

県別出荷割合



1(

が、

BSE検査実施牛(とくを含む)の内訳 (頭数)

【県南食肉センター】

分 類	乳用種		肉専用種		交雑種		計	
	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
ア 生後24ヶ月齢以上の牛のうち、 生体検査時において運動障害、 知覚障害、反射又は意識障害等 の神経症状が疑われたもの及び 全身症状を呈する牛	0	0	0	0	0	0	0	0
イ 生後48ヶ月齢超の牛	228	37	61	15	1	0	290	52
ウ その他(ア及びイ以外)の牛	0	0	0	0	0	0	0	0
計	228	37	61	15	1	0	290	52

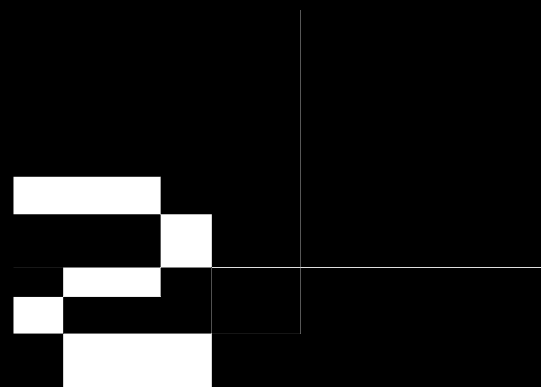
\* 県南食肉センターで処理された12か月齢以上のめん羊6頭についてもTSE検査を実施した。

【九州協同食肉㈱】

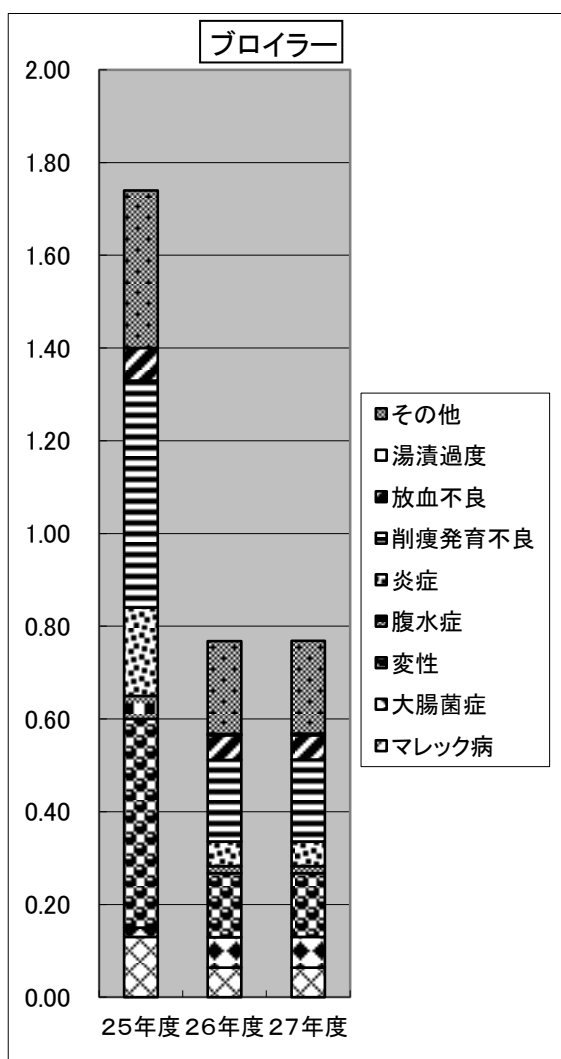
分 類	乳用種		肉専用種		交雑種		計	
	県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外
ア 生後24ヶ月齢以上の牛のうち、 生体検査時において運動障害、 知覚障害、反射又は意識障害等 の神経症状が疑われたもの及び 全身症状を呈する牛	0	0	0	0	0	0	0	0
イ 生後48ヶ月齢超の牛	1	16	3	52	0	0	4	68
ウ その他(ア及びイ以外)の牛	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1	16	3	52	0	0	4	68

【うきは市と畜場】

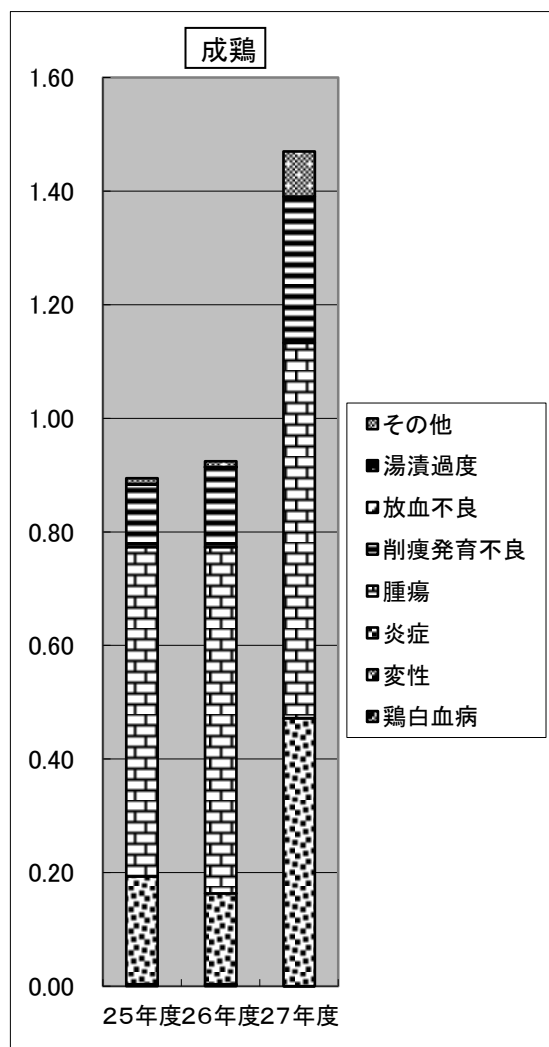
うきは市と畜場については、平成27年度にBSE検査を実施した牛は0頭であった。



過去3年間の廃棄の原因（禁止・全部廃棄）



禁止全廃率(%)



禁止全廃率(%)

	25年度	26年度	27年度
マレック病	0.13	0.06	0.06
大腸菌症	0.02	0.07	0.07
変性	0.45	0.14	0.14
腹水症	0.05	0.02	0.02
炎症	0.19	0.05	0.05
削瘦発育不良	0.49	0.18	0.18
放血不良	0.07	0.05	0.05
湯漬過度	0.00	0.00	0.00
その他	0.34	0.20	0.20
禁止全廃率	1.74	1.01	0.77

	25年度	26年度	27年度
鶏白血病	0.00	0.00	0.00
変性	0.00	0.00	0.00
炎症	0.19	0.16	0.47
腫瘍	0.58	0.61	0.66
削瘦発育不良	0.11	0.14	0.26
放血不良	0.00	0.00	0.00
湯漬過度	0.00	0.00	0.00
その他	0.01	0.01	0.08
禁止全廃率	0.90	0.93	1.47

と殺、内臓の摘出禁止又は廃棄したもの原因

処理食鳥種		ブロイラー			成 鶏			計		
検査羽数		594,318			2,209,333			2,803,651		
処分項目		禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄
処理実羽数		3,503	1,063	2,258	3,672	28,804	40	7,175	29,867	2,298
ク ウ イ ル ミ ジ ス ア 病	鶏 痘				7			7		
	伝染性気管支炎									
	伝染性咽頭気管支炎									
	ニューカッスル病									
	鶏 白 血 病					4			4	
	封 入 体 肝 炎									
	マ レ ッ ク 病	74	305					74	305	
	そ の 他									
細 菌 病	大 腸 菌 症	58	334			1		58	335	
	伝染性コリーザ									
	サルモネラ病									
	ブドウ球菌	64	5					64	5	
	そ の 他									
そ の 他 の 疾 病	毒 血 症									
	膿 毒 症	43	9					43	9	
	敗 血 症	772	173					772	173	
	真 菌 症									
	原虫病(トキソを除く)									
	寄 生 虫 病									
	変 性	777	42			2		777	44	
	尿酸塩沈着症	16	49					16	49	
	水 腫		1			51			52	
	腹 水 症	60	31			2		60	33	
	出 血	12	1	40		3	32	12	4	72
	炎 症	249	65	2,208		10,417	6	249	10,482	2,214
	萎 縮					1,634			1,634	
	腫 瘍					14,611	2		14,611	2
	臓器の異常な形等					3			3	
	異 常 体 温									
	黄 疸	11	6					11	6	
	外 傷	19	7	10	30	18		49	25	10
	中 毒 諸 症									
	削瘦及び発育不良	1,018	32		3,635	2,058		4,653	2,090	
	放 血 不 良	312	2					312	2	
	湯 漬 過 度	18	1					18	1	
	そ の 他									
計	3,503	1,063	2,258	3,672	28,804	40	7,175	29,867	2,298	

(2) 認定小規模食鳥処理場の確認羽数及び確認結果

種類 (開場日数)	確認羽数	食鳥の異常の有無確認結果						廃棄羽数の 合計	
		生体の 状況	体表の状況		体壁の 内側面 の状況	内臓の状況			
		禁止 又は 全部 廃棄	全部 廃棄	一部 廃棄	全部 廃棄	当該 臓器 のみ 廃棄	内臓 全て 廃棄	全部 廃棄	一部 廃棄
ブロイラー (1,017)	40,952	2	204	179	0	172	4	206	355
成鶏 (2,363)	294,444	520	788	2,483	930	6,915	1,867	2,238	11,265
あひる 0	0								
七面鳥 0	0								
合計	335,396	522	992	2,662	930	7,087	1,871	2,444	11,620

施設数：17施設  
(うち3施設は休止中)

認定小規模食鳥処理場に対しては、定期的に食鳥検査員2名で各施設への立ち入り調査を実施し、確認規程に基づく確認作業の実施状況、構造設備及び衛生管理基準の遵守状況について指導している。

### 3 精密検査

#### (1) 微生物検査

食肉等の検査に対応する精密検査【表1】

今年度、食肉検査の判定に関わる微生物学的検査を馬1頭、牛2頭、豚196頭で実施し、疾病別では敗血症が17頭、豚丹毒が78頭、豚赤痢が2頭であった。

表1 病因決定のための検査

検査項目	畜種	延べ検査頭数	延べ検体数	延べ診断頭数	備考
敗血症	豚	17	85	15	
	牛	2	10	2	
	馬	1	5	0	
豚丹毒	豚	177	346	78	関節炎型 : 73頭 心内膜炎型 : 3頭 皮膚型 : 2頭
豚赤痢	豚	2	2	2	
計		199	448	96	



## (2) 理化学検査

平成27年度に理化学検査を実施した獣畜は409頭、検体数は721検体であった。

【表2】

表2 理化学検査件数

検査項目		検査頭数	検体数	検査細目
尿毒症		9	15	アゾスティック 血清中尿素窒素 血清中クレアチニン
黄疸		13	13	血清中総ビリルビン
残留有害物質	簡易法	330	636	抗生物質（ペニシリン系、テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系）
	分別推定法	0	0	抗生物質（ペニシリン系、テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系）
	HPLC等	57	57	合成抗菌剤（11成分*1） 抗生物質（テトラサイクリン系）
合計		409	721	

\* 1：オキシリン酸、チアンフェニコール、ジフラゾン、オルトメトプリム、トリメトプリム、ピリメタミン及びサルファ剤（スルファメラジン、スルファジミジン、スルファモノメトキシシン、スルファジメトキシシン、スルファキノキサリン）

### ア と畜検査に対応する精密検査

#### (ア) 尿毒症

「尿毒症」が疑われた牛8頭、豚1頭について、簡易検査及び精密検査を実施し、血清中の尿素窒素(BUN)濃度及びクレアチニン濃度を測定した結果、尿毒症による廃棄処分は出なかった。

#### (イ) 黄疸

「高度の黄疸」が疑われた牛9頭、馬2頭、豚2頭について、血清中の総ビリルビン(T-Bil)濃度を測定した結果、牛3頭、馬2頭、豚2頭を全部廃棄とした。【表3】

表3 高度の黄疸による全部廃棄畜

月日	獣種	場所	血清中総ビリルビン(mg/dl)	所見
7/23	牛(乳)	九食	2.1	全身の黄変、肝膿瘍、第四胃炎
9/10	牛(肉)	九食	4.0	全身の黄変、肝炎、大小腸炎、心臓弁膜の黄変
10/23	馬(軽種)	県南	21.1	枝肉・靱帯・大動脈等の黄変
11/26	豚	九食	5.2	全身の黄変、肝炎
11/26	豚	九食	5.6	全身の黄変、肝炎
2/22	牛(乳)	県南	2.3	全身の黄変、肝炎、心外膜炎、腎炎
2/29	馬(道産子)	県南	17.1	全身の黄変、肝炎

## イ 食肉中の残留有害物質検査

福岡県食品衛生監視指導計画に基づき、通常搬入畜及び家きんを対象とした残留有害物質モニタリング検査を実施した。検査頭数は114頭、結果は全て陰性であった。

また、抗菌性物質の残留が疑われる病畜及び通常搬入畜の一部についても、簡易法（直接法）によるモニタリング検査を実施した。病畜等については牛214頭、馬1頭を対象に簡易法を実施し、そのうち牛1頭の腎臓に阻止円を認めたため、引き続きディスク法検査を実施して抗生物質残留陰性を確認した。この結果、平成27年度の延べ検査頭数は216頭（牛215頭、馬1頭）となった。【表4、5】

表4 モニタリング検査（簡易法）結果

獣種	通常畜(モニタリング)		病畜等		計	
	検査頭数	陽性数	検査頭数	陽性数	検査頭数	陽性数
牛	48	0	215	0	263	0
とく	0	0	0	0	0	0
馬	12	0	1	0	13	0
豚	30	0	0	0	30	0
鶏	24	0	0	0	24	0
計	114	0	216	0	330	0

表5 抗菌性物質検査項目別検査頭数

物質名	検査項目			合計 (延べ頭数)
	簡易法	分推定法	合抗菌成剤	
牛	263	0	24	287
とく	0	0	0	0
馬	13	0	6	19
豚	30	0	15	45
鶏	24	0	12	36
合計	330	0	57	387

### (3) 病理検査

#### ア 病理検査件数

平成27年度に病理組織検査を実施した獣畜は98頭羽、検体数は167検体であった。

#### イ 診断した疾病

獣種別詳細は以下のとおり。【図1】なお、括弧内の数は症例数を示す。

<牛：42頭>

- ・炎症(19) 心臓 好酸球性肉芽腫性心外膜炎(1)、  
肝臓 壊死性肉芽腫性肝炎(1)、間質性肝炎(1)、肝包膜炎(1)、  
増殖性好酸球性小葉間静脈炎(1)  
腎臓 間質性腎炎(1)  
消化管 好酸球性小腸炎(4)、小腸の好酸球性肉芽腫性漿膜炎(2)、  
第2胃潰瘍(1)、第4胃の肉芽腫性漿膜炎(1)、  
小腸の慢性結節性漿膜炎(1)、漿液性腸間膜炎(1)  
筋 好酸球性筋炎(1)  
リンパ節 肉芽腫性リンパ節炎(2)
- ・腫瘍(9) 牛白血病(6)、悪性黒色腫(1)、心臓血管筋腫(1)、  
リンパ腫(1)
- ・変性(12) 心臓 心臓の器質化(1)、心臓の細動脈硬化症(1)、  
心筋の脂肪浸潤(1)  
肝臓 肝うっ血(1)、肝臓の脂肪変性(1)、  
脾臓 脾臓の陳旧化した壊死巣(1)  
腎臓 腎梗塞(1)、腎臓の点状出血(1)  
リンパ節 リンパ節の脂肪沈着(1)  
その他 メラニン沈着症(1)、死戦期出血(2)
- ・その他(2) 肝臓の再生性結節(1)、腎周囲脂肪の嚢胞(1)

<豚：19頭>

- ・炎症(11) 肝臓 間質性肝炎(1)、肝膿瘍(1)  
腎臓 間質性腎炎(3)、化膿性腎炎(1)、好酸球性腎炎(1)、  
肉芽腫性腎炎(1)  
消化管 豚赤痢(2)、腸腺腫症(1)
- ・腫瘍(1) リンパ腫(1)
- ・変性(3) 肝臓 肝うっ血(1)、肝臓の空胞変性(1)、  
その他 脂肪壊死(1)
- ・奇形(1) 半陰陽(1)
- ・その他(3) リンパ濾胞(1)、リンパ節の過形成(1)、著変なし(1)

<馬：12頭>

- ・炎症(8) 肺 化膿性気管支肺炎・間質性肺炎(1) 肉芽腫性肺炎(1)  
肝臓 胆管周囲炎(1)、肉芽腫性肝炎(1)  
消化管 盲腸炎(1)、盲腸の陳旧化した炎症巣(1)、好酸球性盲腸炎(1)  
血管 壊死性動脈炎(1)
- ・腫瘍(2) 悪性黒色腫(1)、大腸の平滑筋腫(1)
- ・変性(2) 肝臓 肝臓の脂肪変性(1) 肝臓の血管壁硝子様変性(1)

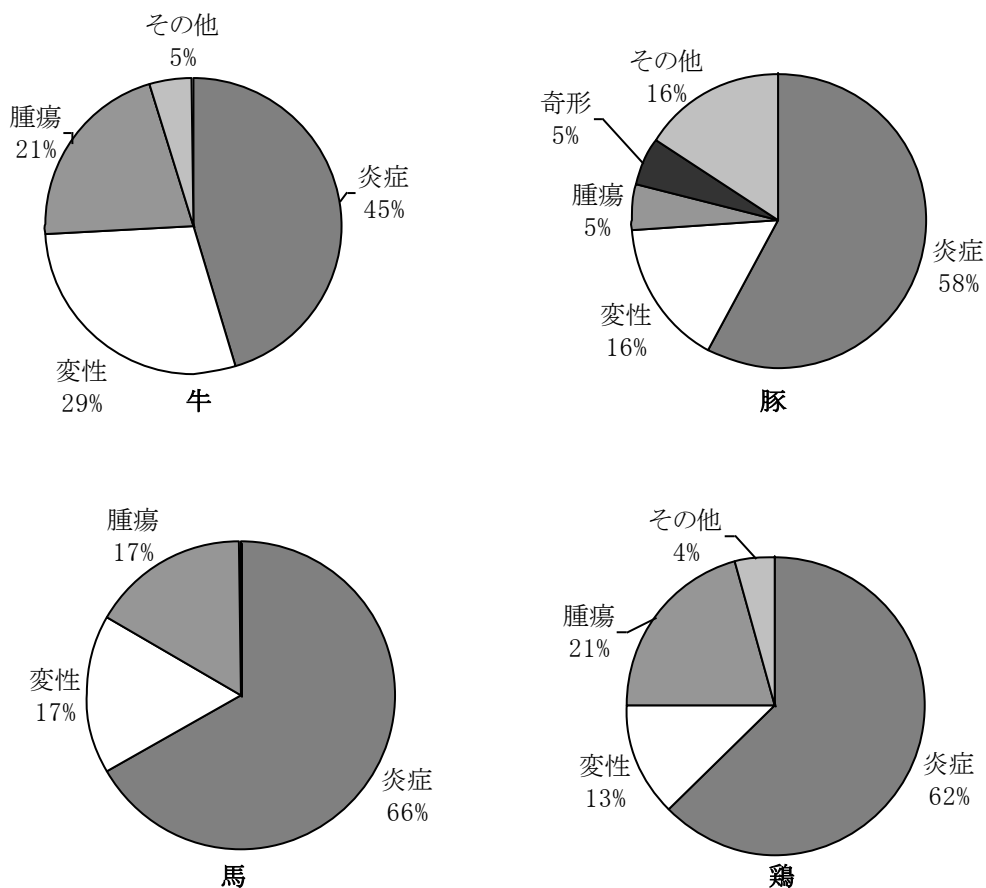
<鶏：24羽>

- ・炎症（15） 肝臓 壊死性肉芽腫性肝炎（2）、化膿性壊死性肝炎（1）、胆管周囲炎（1）
- 腎臓 間質性腎炎（1）
- 消化管 リンパ・形質細胞性小腸炎（1）
- 筋 化膿性筋炎（1）、肉芽腫性筋炎（1）
- 皮膚 鶏痘（2）
- その他 化膿性漿膜炎・腹膜炎（4）、非化膿性漿膜炎（1）
- ・腫瘍（5） 腺癌（2）、骨肉腫（1）、中皮腫（1）、鶏白血病（1）
- ・変性（3） 肝臓 肝臓の空胞変性（1）、肝細胞壊死（1）、肝臓の色素沈着（1）
- ・その他（1） 著変なし（1）

<イノシシ：1頭>

- ・炎症（1） 肝臓 間質性肝炎（1）

図1 診断疾病数割合



#### (4) 業務管理基準（GLP）の対応、整備について

食品衛生検査施設におけるGLP導入については、食品衛生法施行令の一部改正により、平成9年4月1日から義務づけられ、当所でも平成10年4月からスタートした。

##### ア 導入経過

本県でも、平成9年度中に県内の食品衛生検査施設（当検査所、保健所検査課6施設（現在3施設）及び保健環境研究所）より検討委員を選出して、①試験品取扱標準作業書、②試薬管理標準作業書について、県下の検査施設での統一した作業書とラベルを作成した。併せて、試験品採取記録簿、試験品管理記録簿及び検査管理簿兼結果表の3部複写様式の作成と、検査結果通知書の原則統一様式の作成を行った。

その他の③機械器具保守管理標準作業書④検査実施標準作業書については、当所独自に作成した。

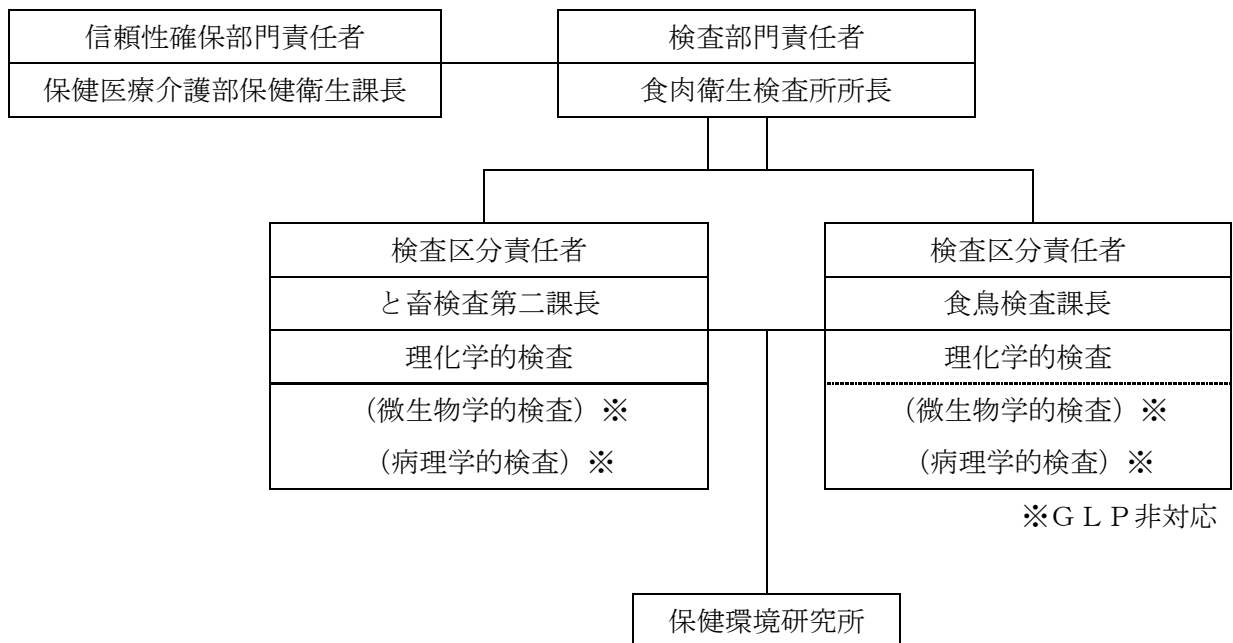
平成11年4月、「福岡県食品衛生検査施設等の業務管理に関する連絡協議会設置要領」が策定され、GLP委員連絡協議会、GLP検査区分責任者連絡協議会、GLP実務者連絡協議会が設置された。

平成27年度は、GLP検査区分責任者連絡協議会が1回、実務者連絡協議会が2回開催された。

##### イ 業務管理体制（組織の構成）

当所の業務管理体制は、下記の図のとおりである。当所の特色としては、と畜検査課と食鳥検査課で勤務時間が異なる変則勤務のため、と畜検査課と食鳥検査課にそれぞれ検査区分責任者を置いている。

また、当所において定量試験を行うことが困難な検査項目については、保健環境研究所に検査依頼を行っている。



#### ウ 対象検査項目及び獣畜鶏

当所でのGLPの対象検査項目としては、食品衛生法の規格基準が設定されているもの（抗生物質、合成抗菌剤及び寄生虫駆除剤）で、病畜、通常畜及び畜水産食品のモニタリング調査（厚生労働省）の対象獣畜及び鶏について実施した。

#### エ 内部精度管理

平成27年度は「スルファキノキサリン、スルファジアジン、スルファジミジン、スルファジメトキシシム、スルファメトキサゾール、スルファメトキシピリダジン、スルファメラジン、スルファモノメトキシシム試験法」と「イベルメクチン、エプリノメクチン、ドラメクチン及びモキシデクチン試験法」についてそれぞれ実施した。

#### オ 外部精度管理

（財）食品薬品安全センター主催の全国統一の外部精度管理に、平成10年度から毎年参加している。

平成27年度の参加項目および対象物質は、①細菌数測定；一般細菌数、②細菌同定；サルモネラ属菌、③残留動物用医薬品；スルファジミジンであり、①、②については良好な結果であったが、③についてはRが管理限界線を上回ったため、原因の推定を行った

#### カ 妥当性評価

「食品中に残留する農薬等に関する試験法の妥当性評価ガイドラインの一部改正について」（平成22年12月24日食安発第1224第1号）により、各試験機関において平成25年12月13日までに農薬等に関する試験法の妥当性評価を行うこととなった。

昨年度までに現在当所の保有する検査法については一度妥当性評価を実施できたことから、平成27年度は、新たに「セファゾリン、セファピリン、セファレキシン、セファロニウム、セフォペラゾン、セフロキシム試験法」について試験法の検討を行い、作成した検査実施標準作業書に基づいて枝分かれ試験を実施し、試験法の妥当性評価を行った。

#### キ 内部点検

平成27年度は信頼性確保部門責任者による内部点検が1回行われた。

## 4 衛生指導

### (1) 微生物検査

#### 〈と畜関係〉

当所では、「平成27年度と畜場における枝肉の微生物汚染実態調査等について」（平成27年7月30日付食安監発0730第1号厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課長通知）に基づく検査の他、衛生検査を行っている。検査対象及び検査項目は下表のとおり。

なお、陽性が検出されたと畜場については、結果に基づき衛生指導を実施済みである。

#### ア と畜場における枝肉の微生物汚染実態調査

検査項目	検体数
一般細菌数及び大腸菌群数（牛・ふき取り）	112
一般細菌数及び大腸菌群数（豚・ふき取り）	132
G F A P 残留量調査*（牛枝肉ふき取り）	112

#### イ 衛生検査

検査項目	検査数
腸管出血性大腸菌検査（牛枝肉・施設ふきとり）	90（0）
糞便系大腸菌群及びサルモネラ属菌（馬枝肉・肝臓ふき取り）	36（0）
馬枝肉モニタリング検査（一般細菌数及び大腸菌群数、馬・ふき取り）	84
ECペトリフィルム検査（牛・豚ふき取り）	25
ザルコシスティス検査（馬頸部筋肉・PCR検査）	15（1）

（ ）は陽性検体数

\* グリア繊維性酸性タンパク質。  
特定部位である脳・せき髄組織の残留量を確認するための検査。

HACCP

( )

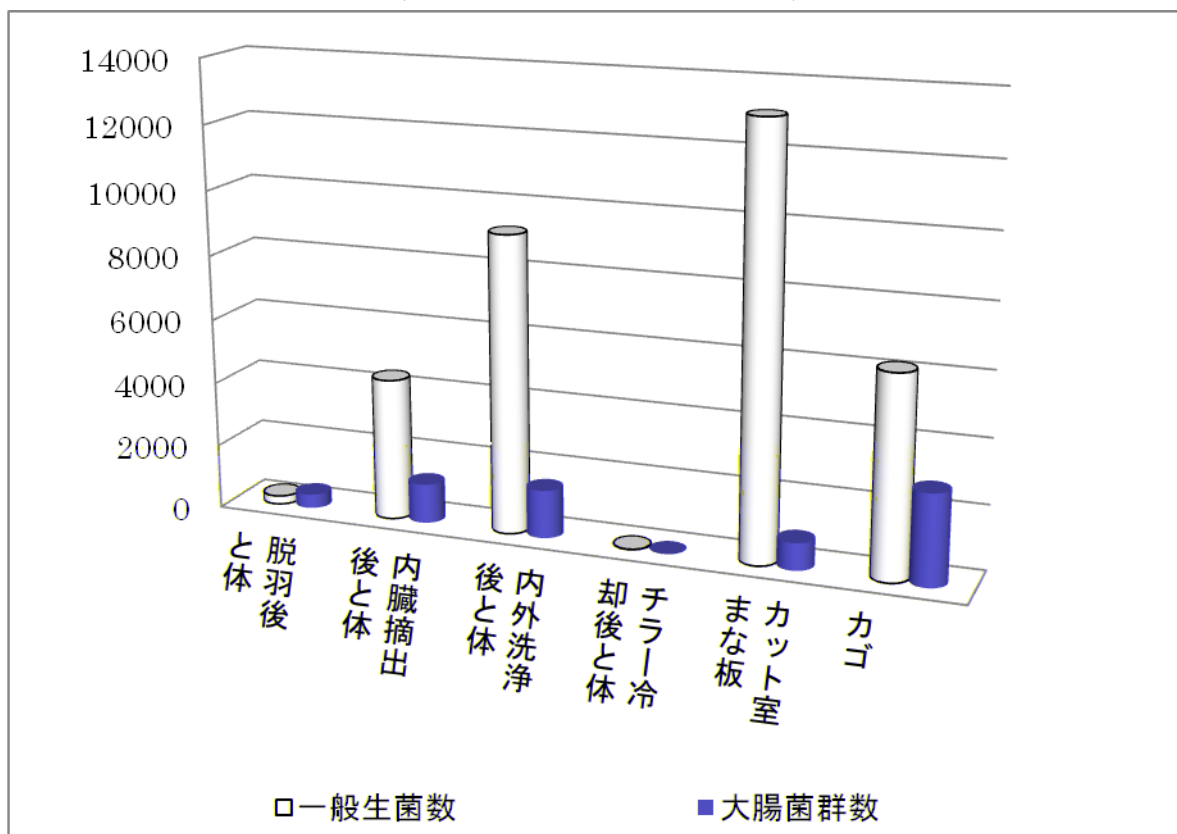
	脱羽後と体	内臓摘出後と体	内外洗浄後と体	チラー冷却後と体	カット室まな板	カゴ(中抜き機下の内臓受け)
一般細菌数	257	4400	9200	8	13100	6200
大腸菌群数	430	1220	1490	ND	850	2820
カンピロバクター	(+)	(+)	(+)	(-)	(+)	(+)

ND

HACCP

1,000

10,000





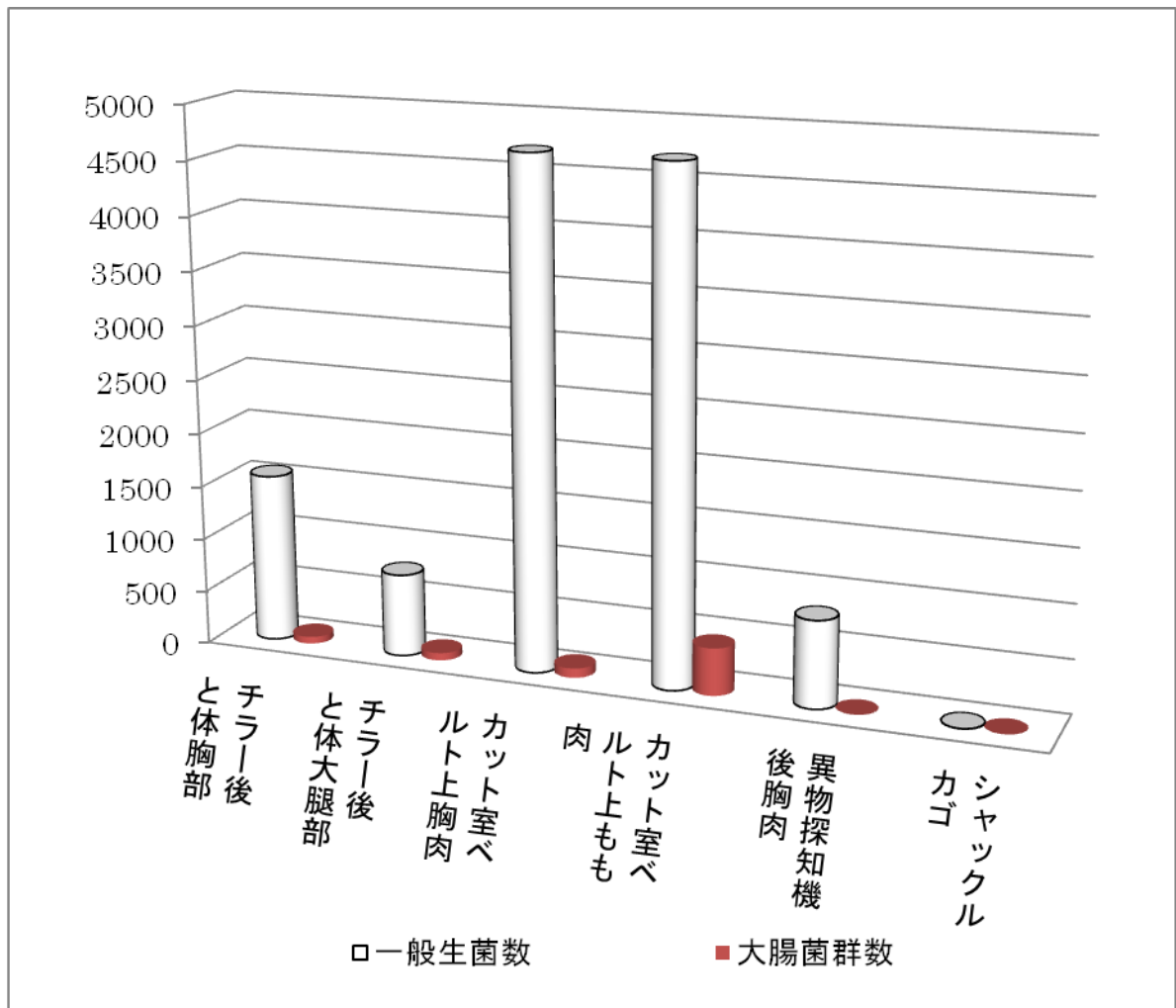
( )

	チラー後と 体胸部	チラー後と体 大腿部	カット室ベルト コンベアー上 胸肉	カット室ベルトコ ンベアー上モモ 肉	異物探知機後 胸肉	シャック ルカゴ
一般細菌数	1570	770	4700	4700	810	0
大腸菌群数	64	69	88	440	0	0
カンピロ バクター	(+)	(+)	(+)	(+)	(-)	(-)

HACCP

1,000

10,000



	6 25	6	
	6 18	45	
	6 25	15	

	7 10	24	
	7 7	55	HACCP HACCP

	7 1	8	
	7 3	5	HACCP HACCP

				(%)	
		4	1000	828	82.8
		14	168	190	113.0
		7	42	14	33.3
	( )	2	4	4	100

## 第 3 章 調査研究

# 1 と畜場内のふきとり検査等による豚レンサ球菌強毒株の浸潤状況調査について

福岡県食肉衛生検査所 ○大谷 公美、松尾 浩子、池田 加江  
永田 祥代、田原 徳三、臂 博美

## はじめに

豚レンサ球菌 (*Streptococcus suis* 以下 *S.suis* とする。) は、臨床上健康な豚の半数以上は鼻腔や扁桃に *S.suis* を保菌しているといわれるが、そのうちの一部が豚に髄膜炎、敗血症、関節炎、肺炎等多様な病態を引き起こし、人にも感染する細菌である[1]。豚及び豚肉と職業上接触する機会の多い人(養豚業者、獣医師、と畜場職員、豚肉を取り扱う飲食業者)が発症しており、感染した豚や生肉に接触した際に皮膚の外傷から感染したものと考えられている。人での発症数は少ないが、症状が重く、公衆衛生上注意が必要な人獣共通感染症である。

近年、Multilocus Sequence Typing (MLST) 法による遺伝子型別が行われるようになり、ST1 及び ST27 complex (以下 ST1、ST27 とする。) と呼ばれる株集団に、豚や人に髄膜炎や敗血症など侵襲性の高い疾病を引き起こした株が多く含まれ、家畜衛生・公衆衛生上特に注意を要する集団であることが明らかになった[2]。

今回、ST1 及び ST27 に属する菌株を広義の *S.suis* 強毒株とし、これらを識別する線毛関連遺伝子プロファイリング法[2]を用いて、豚及びと畜場における *S.suis* 強毒株の浸潤状況について調査を行い、と畜場作業従事者への強毒株の暴露の可能性について検討した。また、あわせてと畜場作業従事者に対し、人獣共通感染症に関するアンケート調査を行ったので、その概要について報告する。

## 材料及び方法

調査期間は平成 26 年 6 月から平成 27 年 2 月とし、管内 A と畜場を対象とした。

### (1) と畜場における *S.suis* 強毒株の浸潤状況について調査

#### ① 施設・器具等のふき取り調査

A と畜場の頭部処理室の床や壁、シンク、かご、まな板等について、作業前又は作業中にふきとった検体を、10ml の滅菌生食で洗い出したものを試料原液とし、オキソイド連鎖球菌選択サプリメント添加羊血液寒天培地に 18~24 時間 CO<sub>2</sub> 培養後、溶血性、グラム陽性球菌(楕円形)、カタラーゼ、オキシターゼ試験を実施した。陰性を確認した菌株について、コロニーダイレクト法で *gdh* 遺伝子検出による *S.suis* の同定を行った。*S.suis* と同定した菌株について、線毛関連遺伝子プロファイリング法による *S.suis* 強毒株の識別を行った。

#### ② 健康豚の保菌状況調査

A と畜場でと畜された健康豚の口腔内を、と畜検査後の頭部からふき取った。また、頭部処理室において食肉処理中の健康豚頭部割面をふきとり、①と同様の方法で検査した。

### ③疣状心内膜炎を呈した豚の調査

管内 A と畜場において確認された豚の疣状心内膜炎豚から分離した菌株について、純培養後、①と同様の方法で検査した。

### (2)と畜場作業従事者に対する人獣共通感染症に関するアンケート調査

平成 27 年 6 月に、A と畜場における作業従事者計 43 名に無記名でのアンケート調査を実施した。内容は、年齢層、性別、人獣共通感染症の知識・関心について及び感染予防対策に関する内容とした。

## 成績

### (1)と畜場における *S.suis* 強毒株の浸潤状況調査結果

#### ①施設・器具等のふき取り調査結果

作業中のまな板のふきとり検体 1 検体のみに、ST27 が検出された。

#### ②健康豚の保菌状況調査結果

健康豚の口腔内ふきとりでは 30 頭中 26 頭から *S.suis* が検出され、そのうち 2 頭から ST27 が検出された。頭部処理室豚割面ふきとりでは、8 頭全てに *S.suis* が検出され、そのうち ST1 が 2 頭、ST27 が 1 頭検出された。

#### ③疣状心内膜炎を呈した豚の調査結果

疣状心内膜炎を呈した豚 9 頭中 8 頭から *S.suis* 強毒株が分離され、内訳は ST1 が 2 頭、ST27 が 6 頭であった。

表 1 *S.suis* 強毒株分離結果

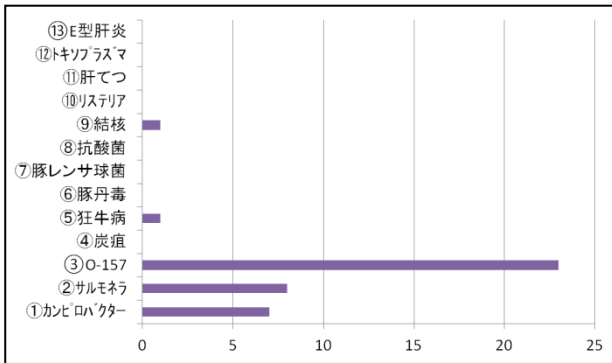
			<i>S.suis</i>	強毒株		
					ST1	ST27
施設ふきとり	作業前	床、壁、排水溝、器具等	0%(0/15)	—	—	—
	作業中	①まな板	50%(8/16)	13%(1/8)	0	1
		②水槽	50%(2/4)	0%(0/2)		
健康豚口腔内ふきとり			87%(26 頭/30 頭)	8%(2 頭/26 頭)	0	2
豚頭部割面ふきとり			100%(8 頭/8 頭)	38%(3 頭/8 頭)	2	1
疣状心内膜炎豚			89%(8 頭/9 頭)	100%(8 頭/8 頭)	2	6

### (2)と畜場従事者に対する人獣共通感染症に関するアンケート調査結果

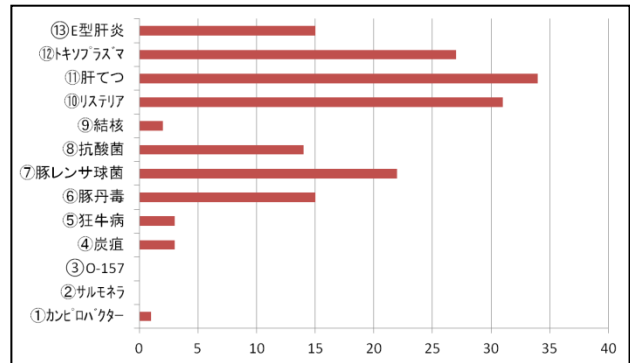
アンケート結果から、と畜場作業従事者は腸管由来とされる食中毒細菌(0-157、サルモネラ、カンピロバクター等)については関心が高く、感染の危険性を意識しているが、*S.suis* については、関心が低いことがわかった。

### 図 1 アンケート結果(抜粋)

あなたが最も感染の可能性があると感じる病気（病原体）はどれですか？「1」を選んで番号を記入してください。



あなたが今まで聞いたことがない病気（病原体）はどれですか？すべて選んで番号を記入してください。



### 考察

今回の結果においても過去の報告と同様、疣状心内膜炎を呈した豚は高率に *S.suis* 強毒株と識別される菌に感染していたことがわかった。このことから、廃棄対象豚（疑いも含めた）の取り扱いについては、*S.suis* 汚染を念頭に、出荷肉等との交差汚染防止の徹底の必要性について、A と畜場に対し指導を行った。

また、頭肉処理作業中の施設ふき取り調査において、まな板から ST27 が検出されたこと、及び健康豚口腔内及び頭部からも ST1、ST27 が検出されたことから、頭部処理においても人獣共通感染症のリスクがあることがわかった。今回の結果からと作業従事者が *S.suis* 強毒株に暴露している可能性が高いことが判明したが、今後、感染リスクを、さらに詳しく調べるためには、と畜場作業従事者の健康調査や血中抗体価等、人側からのアプローチが必要であると思われる。

一方、アンケートの結果、腸管出血性大腸菌やカンピロバクターなどに比べ、と畜場作業従事者の *S.suis* への関心は明らかに低く、そのリスクが正しく理解されているとは言い難い状況であった。今回の検査結果をふまえて、頭部処理における *S.suis* の感染リスクを認識してもらうため、今年 6 月に、と畜場作業従事者に対し、衛生講習会を実施した。今後も、と畜場作業従事者へ食品衛生の観点だけでなく、人獣共通感染症の観点からも衛生教育を実施していきたい。

今回の調査を行うにあたり、御助言、御協力を頂いた福岡県中央家畜保健衛生所 病性鑑定課諸氏に深謝いたします。

### 引用文献

- [1] *Streptococcus suis* の多様性と病原因子 (高松大輔.2011 年.日本細菌学雑誌.66(1):7-21)
- [2] 線毛関連遺伝子のプロファイリングによる疾病リスクの高い *Streptococcus suis* 株の識別 (高松大輔.2011 年.日獣会誌.64:600-603)

## 2 学会及び誌上発表一覧

5	FID TBZ	
6	DNA DNA	
7	HPLC	48 10 7 10
8		
9		
10		

年度	演 題 名	演 者 ・ 学 会 名
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡県における大規模食鳥処理場のカンピロバクターおよびサルモネラ汚染の実態調査</li> <li>食鳥処理場におけるカンピロバクターの検出率とRAPD-PCR法による解析</li> <li>と畜場で分離された大腸菌O157の解析</li> </ul>	安増 邦理 ・福岡県公衆衛生学会 安増 邦理 ・全国食検協微生物部会 高山 優子 ・福岡県公衆衛生学会 ・全国公衆衛生学会
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>生き残りをかけたAと畜場への衛生指導</li> <li>パルスフィールドゲル電気泳動法による食鳥処理場由来サルモネラの疫学解析</li> <li>PCRによるCampylobacter jejuniの迅速検査法</li> <li>カンピロバクターの馬尿酸塩加水分解試験についての一考察</li> </ul>	竹内 峰男 ・九州地区食検協研修会 ・食肉衛生技術研修会 前田 宏昭 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 安増 邦理 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会 永田 朋子 ・九州地区食検協研修会 ・食鳥肉衛生技術研修会
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>経過措置期間中の牛解体作業における衛生指導について</li> <li>食鳥処理場における衛生対策の検証</li> <li>鶏におけるVRE保菌調査</li> <li>豚におけるVRE保菌調査と枝肉の汚染調査</li> </ul>	梅崎みどり ・九州地区食検協研修会 井手 修 ・九州地区食検協研修会 實政 智恵 ・食肉、食鳥肉衛生技術研修会 真鍋 修一 ・九州地区食検協研修会 ・食肉、食鳥肉衛生技術研修会 上田 敦士 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) ・福岡県公衆衛生学会 ・全国公衆衛生学会
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>中抜き方法が異なる食鳥処理場における食鳥肉等の微生物汚染について</li> <li>と畜場における衛生意識向上のとりくみ</li> <li>牛におけるCampylobacter属菌の検出</li> <li>牛胆汁におけるカンピロバクター属菌の保菌状況</li> </ul>	井手 修 ・九州地区食検協研修会 野見山 亨 ・食鳥肉衛生技術研修会 梅崎 由佳 ・福岡県公衆衛生学会 安増 邦理 ・九州地区食検協研修会 松木 三郎 ・福岡県公衆衛生学会
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>認定小規模食鳥処理業者の衛生教育について</li> <li>ブロイラーにおけるカンピロバクター属菌の農場別保菌状況および薬剤感受性について</li> <li>認定小規模食鳥処理施設における衛生検査と改善指導について</li> <li>イヌ、ネコ、ウシ、ブタにおけるクリプトスポリジウムの検出結果</li> </ul>	戸越 幸子 ・九州地区食検協研修会 荒牧 明世 ・食鳥肉衛生技術研修会 松木 三郎 ・九州地区食検協研修会 長濱 邦昭 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 藤田 幸辰 ・日本獣医公衆衛生学会(九州)
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>牛海綿状脳症(BSE)検査の取り組み</li> <li>福岡県における動物由来感染症予防体制整備事業について</li> <li>牛、豚およびブロイラーにおけるカンピロバクター属菌の保菌状況および食肉汚染について</li> <li>残留抗菌性物質独自モニタリング検査法の検討</li> </ul>	石田 剛 ・福岡県公衆衛生学会 荒牧 明世 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) ・福岡県獣医師会会報 松木 三郎 ・日本獣医公衆衛生学会(九州) 松木 三郎 ・九州地区食検協研修会



16	視	
17	<i>B.megaterium</i>	
18	<i>Coxiella burnetii</i>	
19		
20	視  用	
21	視	
22		
24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉眼的に肺腫瘍との鑑別が困難であった馬の肺に形成されたCryptococcomaの一例</li> <li>・牛の第四胃粘膜下腫瘍、肝臓腫瘍</li> <li>・馬におけるCampylobacter属菌の保菌状況調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一二三達郎・九州地区食検協研修会</li> <li>・日本獣医公衆衛生学会（九州）</li> <li>一二三達郎・全国食検協病理部会</li> <li>鈿崎 健太・九州地区食検協研修会</li> <li>・食肉衛生技術研修会</li> </ul>

年度	演 題 名	演 者 ・ 学 会 名
25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉眼的に結核病が疑われた牛の原発不明腺癌の一例</li> <li>・馬肝臓の灰白色硬結節におけるエキノコックス（多包虫）感染状況調査</li> <li>・馬肝臓の灰白色硬結節におけるエキノコックス（多包虫）感染状況調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木下広之 ・九州地区食検協研修会</li> <li>一二三達郎 ・九州地区食検協研修会</li> <li>池田加江 ・日本獣医公衆衛生学会（九州）</li> <li>・日本獣医公衆衛生学会（全国）</li> </ul>
26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胸壁への転移がみられた牛の胸膜原発線維肉腫の1例</li> <li>・福岡県のと畜場に搬入された馬にみられた肝臓灰白色硬結節と多包虫感染との関連性</li> <li>・生食用食肉の腸内細菌科菌群検出試験法を応用したふき取り検査等による生食用食肉加工施設への衛生指導について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一二三達郎 ・日本獣医公衆衛生学会（九州）</li> <li>一二三達郎 ・日本獣医師会雑誌第68巻第4号</li> <li>植中 俊尚 ・九州地区食品衛生監視員研修会</li> <li>・全国食品衛生監視員研修会（誌上发表）</li> </ul>
27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・と畜場内のふきとり検査等による豚レンサ球菌強毒株の浸潤状況調査について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大谷 公美 ・九州地区食検協研修会</li> </ul>



福岡県行政資料

分類記号 GF	所属コード 4404707
登録年度 28	登録番号 3